

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2772402588
法人名	医療法人 中屋覚志会
事業所名	医療法人中屋覚志会 グループホームくすみ坂
所在地	〒573-0124 大阪府枚方市津田南2丁目40-20 (電話) 072-808-0701

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年11月13日
評価確定日	平成21年12月25日

【情報提供票より】(平成 21 年 9 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	15.7 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1か月 60,000 円			

(4) 利用者の概要(9 月 30 日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人中屋覚志会津田病院、岡田歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは、高台にある新興住宅地に位置し、竹林であった隣地は住宅地に生まれ変わりつつあります。地域医療に力を注いでいる医療法人を母体とし、定期的な医師や看護師の訪問を受け、24時間医療連携体制も万全で、安全と安心が確保されています。ホームでは散歩やレクリエーションを日課としており、利用者は自由に参加し活気に満ちた日々を過ごしています。また家族の来訪も多く協力的で、行事や家族会への参加率も高く、多くの家族の意見を運営に反映させています。職員は理念とする「自然のままに」を常に意識してケアにあたり、ホームにおいても自宅と変わらない自由な暮らしと自分らしくいけることを支援しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受け、地域が主催する救命救急講習に職員が参加し、ホームを知ってもらい取り組みをしたり、個人情報の保管場所を外部から見えないよう配慮するなど、改善に努めています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票は、項目の意味を説明したうえで白紙のものを全員に回覧し、記入してもらったものを管理者が集約して作成されるなど、全員での取り組みがみられます。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に、利用者、家族、地域住民、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員が参加され開催しています。会議ではホームの現状や行事、外部評価等の報告がなされる他、参加者から地域の情報を得たり、それぞれの立場に応じた意見を聞いて運営に反映させています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情箱を設置したり、苦情機関を掲示しています。全員の家族が集まる家族会を年に一度開催し、直接意見を聞いたり家族同士が話し合う機会を設けています。また行事の際や日々の来所時に意見を聞くように心がけています。得られた意見は家族と相談したりカンファレンスで話し合い、対応しています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域に自治会はありませんが、近隣住民と散歩の途中で挨拶を交わしたり、野菜や果物を頂いています。民生委員から情報を得て、老人会の行事や包括支援センター主催の世代交流会に参加しています。また近隣保育園の園児が年に数回ホームを訪問し交流しています。ホームの夏祭りには地域に声をかけ、参加頂いています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム設立時に話し合い作成された、「自然のままに」との理念を今日も大切に守っている。利用者が地域の中で、自宅と変わらない自由な暮らしの実現と自分らしく生きることを意味している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者に清書してもらった理念を、誰からもよく見えるように玄関に掲示されている。理念は入職時に説明し、毎日や毎月行われるカンファレンスにおいて、理念通りのケアが出来ているかを振り返り、確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に自治会はないが、近隣住民と散歩の途中で挨拶を交わしたり、野菜や果物を頂いている。民生委員から情報を得て、老人会の行事や包括支援センター主催の世代交流会に参加している。また近隣保育園の園児が年に数回ホームを訪問し交流している。ホームの夏祭りには地域に声をかけ、近隣の方に参加頂いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受け、地域が主催する救命救急講習に職員が参加しホームをアピールしたり、個人情報の保管場所を外部から見えないよう配慮するなど、改善に努めている。また今回の自己評価票は、項目の意味を説明したうえで白紙のものを全員に回覧し、記入してもらったものを管理者が集約して作成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に、利用者、家族、地域住民、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員が参加され開催されている。会議ではホームの現状や行事、外部評価等の報告がなされる他、参加者から地域の情報を得たり、それぞれの立場に応じた意見を聞いて運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは馴染みの関係であり、市との共催で定期的に地域の人を対象とする認知症サポート研修を開催している。また市の介護相談員を毎月受け入れ、来訪を楽しみにしている利用者も多く、来訪の回数を増やしてもらう等の取り組みを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	頻繁にある家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりや健康状態を直接報告し、行事の度に写真を撮り、毎月の請求書と一緒に郵送している。また季刊誌を発行し、その中で職員の異動についても知らせている。金銭管理は預かり金とし、3ヶ月毎のケアプラン見直しの際に、家族に収支報告と領収書を手渡し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置したり、苦情機関を掲示している。全員の家族が集まる家族会を年に一度開催し、直接意見を聞いたり家族同士が話し合う機会を設けている。また行事の際や日々の来所時に意見を聞くように心がけている。得られた意見は家族と相談したりカンファレンスで話し合い、対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から、話し合う機会を多く持つよう心がけ、管理者やリーダーが悩みの相談に乗ったり、定期的に親睦会を行っている。また年に2回書面にて自己評価を行う際に、希望や悩みを書いてもらい対応している。入職時には他の職員がフォローし、利用者に対するダメージを軽減している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	習熟度に応じ外部研修に参加し、それらの職員が中心となり、法人内でも毎月伝達研修を行っている。また研修の情報は掲示し希望を募ったり、必要に応じて管理者が指名して参加してもらっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部地区グループホーム連絡会に参加し、管理者だけでなく職員同士が交流を図っている。持ち回りで見学を兼ね記録の採り方やケアプランについて意見を出し合ったり、情報交換を行っている。また他ホームと相互見学したり悩みを共有したりとの交流も見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には出来るだけ見学をお願いし、お昼ご飯やおやつを食べてもらい利用者や職員と一緒に過ごしてもらっている。希望があれば、空き室を利用して宿泊も可能であり、1か月程通いで体験して頂き入居に繋げた利用者もあり、自宅に向いたり、迎えに行ったりと家族の協力を得ながら、徐々に慣れてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	以前の踊りの先生には着物のたたみ方を教わったり、料理や裁縫など得意分野を發揮してもらい、職員がいろいろ教わり利用者の自信につながっている。また若い頃の話の聞いたり、昔の写真を見せてもらったりしながら、共に楽しい時を過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の部屋で話をしたり、食事時間やおやつの際、入浴時など日常の会話から思いを汲み取っている。また今までの生活歴や家族の意見を聞きながら思いを把握し、センター方式の一部を利用し、活躍して頂ける場面を作り出している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望や意見をもとに、毎日や毎月行われるカンファレンスで話し合い、職員の気づきや意見が反映されたケアプランを作成している。また、必要に応じて往診時の主治医や看護師の意見をケアプランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは毎月モニタリング、評価を行い、それらをもとに3ヶ月毎にカンファレンスで見直しされている。状態に変化が見られる場合は、その都度見直しを行っている。ケアプランと日々の記録が連動出来るように、ケアプランの番号を介護日誌にも取り入れ、支援に応じて記入するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない時の専門医への通院介助や馴染みの理美容への送迎、利用者の希望による嗜好品の買物、家族との外出の支援等を行っている。また法人病院の送迎車で協力病院までの送迎を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に相談しかかりつけ医を決めているが、法人が病院ということで法人病院をかかりつけ医とされる利用者も多い。月に2回の法人医師の往診や毎週の看護師の来訪により、日々の健康管理を行っており、通院後は病院から報告書ももらっている。法人病院とは24時間連絡可能ですぐに対応できる体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族の希望を聞いている。また、これまでも看取りの経験があり、重度化した場合には看取り指針を交わし、主治医と相談したうえで家族の希望があれば、看取りを行う予定である。職員間でも方針を共有しており、主治医や看護師とも連携を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉遣いには特に配慮し、馴れ馴れしくなったり命令口調にならないようカンファレンスの際に徹底を図っている。また個人のファイルは事務室の書棚にカーテンをつけ、他の目に触れないように配慮し保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを尊重し、起床や就寝も個々に違いで、声かけはするが無理強いしない様に心がけている。毎日、午前中の散歩や午後のレクリエーションは日課となっているが、その日の気分によって、自由に参加してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人病院の栄養士が立てた献立に沿って、調理師が調理している。利用者は足りない食材の買物や下ごしらえ、味見などを一緒に行ったり、おやつ作りを楽しみにしている。食事前には嚥下予防として口腔体操を行っている。食事は利用者と職員と一緒に同じ物を食べながら、時には笑い声が聞こえる楽しい食事風景である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	10時から4時くらいまでの好きな時間に入浴して頂き、週に2回は入れるように支援している。皮膚の乾燥を防ぐため保湿入浴剤を使用している。入浴を拒否される利用者には、家族に協力してもらったり、入浴剤を変えたりして入浴を勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道が得意な利用者にはメニューを書いてもらったり、土いじりが得意な方には菜園の世話をお願いし、絵の得意な利用者は園児に渡す絵を描いてもらったりと、得意な分野での活躍の場面を提供している。また、体操やレクリエーション、裁縫、編み物など好きな事を楽しんでもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩コースが豊富な周辺を利用して、毎日必ず散歩に出かけ外の空気を吸うことが出来るよう支援している。また、本人の希望により買物やドライブ、外食等に出かけている。行事として花見や紅葉を見に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることによる弊害を理解し、日中は施錠しないケアに取り組まれており、玄関にセンサーを設置している。外に出たそうにしている利用者には、職員と一緒に近所を一周して帰ってくるなどの対応を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の指導を受け、昼夜を想定して避難訓練を行っている。また地域が主催する救急救命講習に参加し、ホームを地域に知ってもらう取り組みを行っている。民生委員に入居者名簿を渡し、ホームの非常災害時には代わって家族に連絡を入れてもらえるようお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎回記録に残している。また法人管理栄養士の指導を受け、糖尿病の利用者には油ものを煮物に変更している。見た目や彩も大切にしながら、状態の変化に伴い食材を刻んだり、ミキサーをかけたリ、トロミをつけたりして提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に絵画を飾り、玄関先や庭の菜園に花や野菜を植え、季節を感じる事が出来る支援をしている。またリビングには鏡を配し、台所に居ても利用者の様子がわかるよう工夫されている。玄関先や廊下にベンチや椅子を置き、一人になれる空間づくりがなされている。また、トイレの一つにはシャワーを取り付け、プライバシーに配慮しながら排せつの介助が出来るよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全施設長の作品である表札を掲げ、自室がわかる配慮がなされている。ベッド、クローゼット、洗面台が用意された居室には、利用者が馴染みの家具やテレビ、位牌、遺影、椅子等を持参し、配置もそれぞれ工夫しながら居心地良く過ごされている。		